

京都大学人文科学研究所共同研究実績・活動報告書

(3年計画の1年目)

1. 研究課題

文化資源と文化運動

Cultural resources and cultural movements

2. 研究代表者氏名

菊地 暁

KIKUCHI, Akira

3. 研究期間

2023年4月-2026年3月(1年目)

4. 研究目的

「文化資源」は「資源ごみ」に例えられる。「資源ごみ」は「ごみ」には違いないが、何らかの利用可能性を見出されるが故に、収集分類され処理再活用される「資源」である。同様に、「文化資源」も、さしあたり用途不明かもしれないが何らかの利用可能性を見出され、それゆえに対象化（収集、分類、保管、公開、再活用等々）がなされる文化的事物と捉えることができる。そして「文化資源」への関心を前景化させている一大要因が、デジタル・トランスフォーメーションと呼ばれる社会のドラスティックな変革であり、その一端としてデジタル・ヒューマニティーズの展開である。以上のような問題意識に基づき、大学資料、学校資料、出版資料、写真資料など、個別具体的な資料群の分析に基づきつつ、そのような資料群を産み出し、受け継ぐ「文化運動」の実態を解き明かしていくことが、本共同研究の目的となる。

'Cultural resources' can be likened to 'resource waste'. Resource waste is a resource that is collected, classified, treated and recycled because it has some potential for use, although it is still waste. Similarly, "cultural resources" can be regarded as cultural objects for which there is no known use at the moment, but which are found to have some potential for use and are therefore objectified. And one major factor that has brought interest in 'cultural resources' into the foreground is the dramatic transformation of society, known as digital transformation, and one part of this is the development of digital humanities. Based on the above awareness of the issues, the aim of this joint research is to reveal the reality of the 'cultural movement' that produced and passed on such materials, based on the analysis of specific individual materials, such as university, school, publication and photographic materials.

5. 本年度の研究実施状況

文化資源の収集・保存・分析・活用を「文化運動」という観点から再考する本研究班は、令和5年度、アカデミズムと市民的公共圏をつなぐ「公共民俗学 public folklore」に関する研究会、民間信仰研究を中心とした「歴史民俗学 historical folklore」に関する研究会を実施したほか、関連するいくつかの予備的な研究会を実施した。そのほか、京都市左京区に関する文化資源の収集・整理事業に協力した。

6. 本年度の研究実施内容

- 2023-08-08 文化資源と文化運動 文化資源と文化運動 発表者 菊地暁 フィールド・学史・現実社会—矢野民俗学を読み直す— 発表者 辻本侑生 弘前大学 地域の文化資源を編み直す—北九州大衆文化史研究会の構想— 発表者 真鍋昌賢 北九州市立大学 小鳥と虫と草花と——あるいは登山と言葉と— 発表者 高木史人 武庫川女子大学 雑誌とサロン—新渡戸稲造・柳田國男と学知/学歴— 発表者 矢野敬一 静岡大学
- 2023-09-23 日本民俗学講習会 パブリックでも良いが、パブリックを掲げなくても良いと、私がひそかに思う理由 発表者 菊地暁 「アマチュア」の心 発表者 雷婷 東京大学 あまのじゃく若手民俗学者の軌跡—「公共」という「呪い」？— 発表者 辻本侑生 弘前大学 公共民俗学前夜？—「菅民俗学」論のための試論／私論— 発表者 塚原伸治 東京大学 島原と菅豊と民俗学 発表者 西村明 東京大学 菅さんと私 発表者 俵木悟 成城大学 人々のwell-beingを目指す学問の構想 発表者 村上忠喜 京都産業大学 コメント（全体） コメンテーター 菅豊 東京大学
- 2024-01-27 日本民俗学講習会 小池先生と「絵の民俗」研究 発表者 鈴木英恵 群馬パース大学 青森県で研究するということ 発表者 村中健大 十和田市役所 多様な史資料への目配り 発表者 佐藤優 盛岡大学 先生と私 発表者 山田巖子 弘前大学 「東方朔」連作論文再読 発表者 渡部圭一 京都先端科学大学 簠簋・大雑書・奥会津—小池先生の背中— 発表者 馬場真理子 東京大学 小池先生のご研究からの影響 発表者 松山由布子 中京大学 青森県における旧暦から新暦への切りかえについて 発表者 下村育世 国立歴史民俗博物館 新陰陽道叢書覚書 発表者 赤澤春彦 摂南大学 企画展「陰陽師とは何者か」までの道のり 発表者 梅田千尋 京都女子大学 歴史と民俗のあいだ—小池淳一論序説— 発表者 井上智勝 埼玉大学
- 2024-03-09 民俗学座談 民俗学的知の現状と課題 発表者 菊地暁 発表者 島村恭則 関西学院大学

なし

所内

学外

矢野敬一(静岡大学)、高木史人(武庫川女子大学)

区分	機関数 (必須)	受入人数					延べ人数				
		総計	海外研究者	若手研究者 (40歳未満)	若手研究者 (35歳以下)	大学院生	総計	海外研究者	若手研究者 (40歳未満)	若手研究者 (35歳以下)	大学院生
人文研所属 (内女性)	1 /	1 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	4 /	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
京大内 (人文研を除く) (内女性)	0 /	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 /	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
国立大学 (内女性)	4 /	9 (4)	1 (1)	4 (3)	4 (3)	3 (3)	11 /	1 (1)	4 (3)	4 (3)	3 (3)
公立大学 (内女性)	1 /	1 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 /	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
私立大学 (内女性)	17 /	17 (3)	0 (0)	2 (2)	2 (2)	0 (0)	17 /	0 (3)	2 (0)	2 (2)	0 (0)
大学共同利用機関法人 (内女性)	2 /	2 (1)	0 (0)	1 (1)	1 (1)	0 (0)	2 /	0 (0)	1 (1)	1 (1)	0 (0)
独立行政法人等公的研究機関 (内女性)	1 /	1 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	1 /	0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)
民間機関 (内女性)	0 /	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 /	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
外国機関 (内女性)	0 /	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 /	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
その他 ※ (内女性)	7 /	7 (3)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	7 /	0 (3)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
計	33 /	38 (11)	1 (1)	8 (7)	7 (6)	3 (3)	43 /	1 (1)	8 (7)	7 (6)	3 (3)

※「その他」の区分受入がある場合

具体的な所属等名称を記載：例) 高校教員

無所属の場合は機関数0とカウントし、この欄の記載不要

岩波書店、実生社（いずれも編集者）

10. 本年度 共同利用・共同研究を活用して発表された論文数

	共同利用・共同研究による成果として発表された論文数			
			うち国際学術誌掲載論文数	
①人文研に所属する者のみの論文(単著・共著)	0		0	
②人文研に所属する者と人文研以外の国内の機関に所属する者の論文(共著)	0	(0)	0	(0)
③人文研以外の国内の機関に所属する者のみの論文(単著・共著)	0		0	
④人文研を含む国内の機関に所属する者と国外の機関に所属する者の論文(共著)	0	(0)	0	(0)
⑤国外の機関に所属する者のみの論文(単著・共著)	0		0	

11. 本年度共同利用・共同研究による成果として発行した研究書

なし

12. 博士学位を取得した学生の数

なし

13. 費目の 30%を超える大幅な変更があった場合の変更理由

なし

14. 次年度の研究実施計画

文化資源の収集・保存・分析・活用を「文化運動」という観点から再考する本研究班は、令和5年度に引き続き、京都市左京区に関する文化資源の収集・整理に取り組むほか、民俗学運動を中心とした学術資料の整理・分析、生活史資料の収集・整理、ネット時代の地域文化資源に関する方法論的検討などを実施する予定である。

15. 研究成果公表計画および今後の展開等

文化資源の収集・保存・分析・活用を「文化運動」という観点から再考する本研究班は、対象の性質上、公開スタイルも多様なものにならざるをえないと考えているが、資料集やワークショップ報告書といった形での成果公開を考えている。